

なきごえ



1967

12

大 阪 市
天王寺動物園協会

サルの話〔II〕

おもちゃの動物園

吉田平七郎

△動物園でサルを見ている人たちはみなニコニコしている。如何にも懐しく身近かなものに会っているという親しみがあふれている。何が彼等を魅きつけているのか？それはサルが人に似ているからで、類人猿でも特に幼いものほどより人間的な顔をしているのでかわいい。成長するにつれて口が突出してくるので、だんだんサルラシクなり、顔面角がせまくなる。人は大脳が発達して頭が大きく額が前方に出ているが歯が退化して顎は後退して、おとがいが残り、鼻が中間に取り残されてサルより高く見えているだけで多少の高低は人種的に気温の淘汰によったものと考えられる。元来、サルは熱帯性のもので私たちが裸になったサルにすぎないのであるが、大昔森林で樹上生活をしてきたことを忘れてはいけない。四足時代より四手時代があり体を安定させるために木の枝を把握する能力ができ、前肢は上下左右に動き、手も上下にかえすことで出来る。ここですでに道具を使う準備がととのったことになる。又、両手でぶら下ると体が垂直になるので直立二足歩行の可能性が用意されたことになる。樹枝間の運動をするため目は立体視が出来るようになった。

樹上で揺そながう生活していた事が今ではゆりかごやロッキングチェアとなり、ブランコやさまざまな公園の娯楽遊具で快感を感じるのもその名残りだと考えてよい。私たちは森林から草原へ、樹上生活から地方生活へ変って行ったのでより脚が長くなり(15:17)でテナガザルは逆に(24:14)で、だんだん腕が脚より長くなったものである。しかし、人間の初生児を見ると同長で、足の拇指もひらいているし、木の枝にぶらさがる握力が一時的に見られる。

△樹上生活と地上生活をする割合はアナガザルでは9:1。チンパンジーやニホンザルで4:6。ゴリラでは1:9になっている。手足(腕と脚の事)の長さの比較や地上での歩き方を動物園で調べると興味がある。テナガザルは手が長すぎてバランスをとるために使い垂直姿勢で歩ける。ゴリラ・チンパンジー・オランウータン何れも前肢が長いので手の指の第2関節の外側を地面につけて歩く。

狭鼻類ニホンザル等は手の指の内側を全部地につけて歩き、広鼻類クモザル等は掌全部を地面に

つけて歩く。

ウーリーモンキーやロリスは前後肢同長で、ギャラゴ・メガネザル・キツネザルの仲間は後肢の方がより長くできている。

△尾が無いので類人猿は人に近いと思われるが、尾骨の数は平均人が4.2個。チンパンジーが3.3個。ゴリラが3個で彼等の方が人間より退化している。この場合、退化は近化を意味するので毛が3本足りぬどころではない。

△よく人真似する事をサル真似といい、こざかしい事をサルぢえというが、サルが完全に生活できる能力は物まねや体験によるものが多く、食物の選択から性行動や育児、有害な動物から身を護ること等持って生まれた頬袋の使い方も、ニホンザルを生後隔離飼育したものは知らず出来ないという。正に物真似文化でサルは教えてもわからず、見習う事によってサルになるという事である。

△昔映画で野生のサルを生取りするのにヒョウタンに木の実を入れて一方ひもでかたくしばっておくと、餌につられヒョウタンから手が出ないまま捕獲される場面があり、全て欲の深い子供のお話そっくりなのに驚いた事があったが、サルにもピンからキリまで必要以上に賢くなる必要もないのであるが、マントヒヒにイチヂクを取らせたり、ブタオザルにヤシの実を取らせたり、断崖絶壁にある茶の葉を摘ませたりする所もあるときく。

チンパンジーは高く評価されているが、オランウータンも性格の違いでスローではあるが、殆んど同じテストに成功している。人間より力が強くなると芸をやらせるのが無理で難しいと考えられていたのに名古屋のゴリラは見事に芸達者で記録を作っている。上手に人まねするサルがいるかと思ったら、モンキーダンスをする人間もいる。アクロバットや体操の名演技にも感心するが動物園でテナガザルが枝から枝へ腕わたり(ブラキエイション)を楽しくやっているのを見ているとこちらの方がはるかにすばらしい。

△さてサルと人が同じ仲間の親類同志であると解っても、未だ世間にはサルが人間に近化したと勘違いしている人がある。サルも人もいなかった大昔、サルでも人もなかったものから次第にサルとなり人となったもので、絶対人がサルにカムバックして動物園に入り、動物園のサルが人になって見に来るような事はないから安心してよい。

(つづく)

おサルと掟

11月号にはリラちゃんの悲しい死の原因についてお知らせしました。今月はおサルと掟ということについてのお話してみましよう。

おサルを見ていて心をうたれるシーンは、何といても母と仔がかもし出す情景です。

出産した雌は今までとは動作が全く変わり、もっぱら赤ん坊だけに注意を集中します。子供は生まれたばかりなのに母親の胸毛や背中を毛を手足でしっかり握ってはなしません。

インドにラングールという種類のサルがいます。このサルは母ザルが静かに赤ん坊を抱いてその体を調べたりきれいにしていると、そのまわりに他の雌たちが集まってきて、抱かせてもらおうと列をつくって順番を待つそうです。しかし、母親は他の雌に子供を抱かせてもつかの間も赤ん坊から目をはなすことなく、危険を感じたり自分が抱きたいと思うとすぐに赤ん坊を取りかえます。母親のそうした動作には誰も反対することはないそうです。

当園でお産が近づいたので別室に収容していた手長ザルに可愛い赤ちゃんが生まれました。6カ月位たってから元のサル舎に返して皆と同居させることにしました。

この親仔が帰ってきたのがサル舎で退屈していた他の3頭のテナガザルにはよほどうれしかったのでしょう。かわいい子供を抱かせる抱かせる母親に雌たちがせがんでいるほほえました光景を展開しました。そのうち母親の胸から離れた赤ちゃんがヨチヨチ歩きはじめたから大変です。たちまちにして赤ちゃんの取り合いが始まりました。前にお話したラングールのように群の掟と習慣によって行儀がいいのならよかったです、長い軟い赤ちゃんの手を両方から引張り合いを始めてしまったからたまりません。赤ちゃんの関節

ははづれ、上膊骨は骨折して頓死の状態になってしまいました。急報でやっと取り出して治療しギブスをはめてやりました。それから長い間、人工哺育が続けられ骨折部も完全になおりました。

私達はサルの群れには掟があり、それを守って生活をしていることを学びました。

これらの2つの出来ごとを観察してその生活ルールを守らないととんでもないことが起るといことです。野生のラングールの群れには美しい掟によるしつけを身につけていましたからテナガザルのようなことは起らないですが、不幸なことには動物園でのより合世帯であったテナガザルの同居生活の仲には統制がとれていなかったもので、たゞ可愛いという本能のみが先行して、母親にも制禦力がなくこのような結果がおこりました。

人間の社会においても全学連のように掟を守らない結果、尊い犠牲者を出していることを思いうかべるとき、掟とか躰とかいうことについて、来年はサルに負けないようにしなければならぬと思います。そうすることによって交通事故ももっと少なくなるのではないかと思います。

(松岡恵爾)



表紙の写真説明

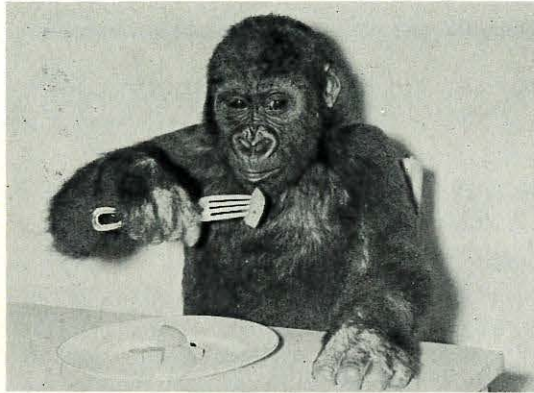
ゴリラ

この春にこんなにかわいいゴリラがやってきました。生まれは遠いアフリカのカメルーンです。今、いっしょういんめいしつけをして、動物園の新しいスターにしようと思っています。

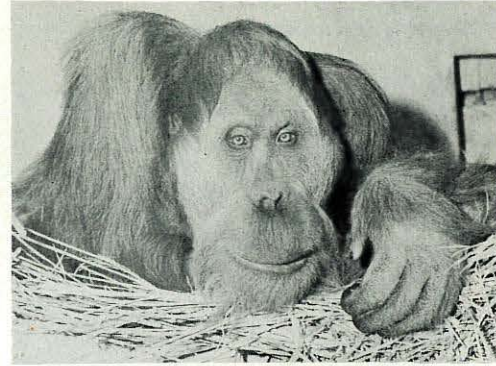
動物園グラフ

さるの仲間たち(II)

類人猿(ゴリラ、チンパンジー、オランウータン、テナガザル)は、人に一番近い動物で知能も発達しています。教えると、いろいろな芸をしますが、これも小さい時からの「しつけ」が最も大切で、毎日「しつけ」の訓練が行なわれています。



↑ゴリラのゴロちゃん
フォークを使ってカキを食べています。



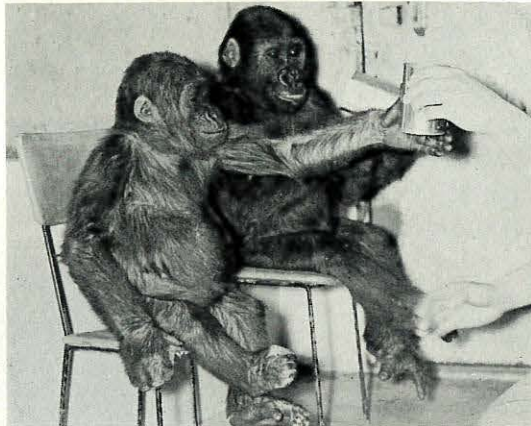
↑オランウータンのオランちゃん(おす)
寝台の上にならで巣をつくってねます。



↑オランウータンのウータンちゃん(めす)
麻袋をかぶって好物の白菜をパクつく。



↑いすにきちんとすわっておぎょうぎもい
いですね。『オイシナー』と牛乳を飲む



←ハイ!リラちゃん
おちょうだい



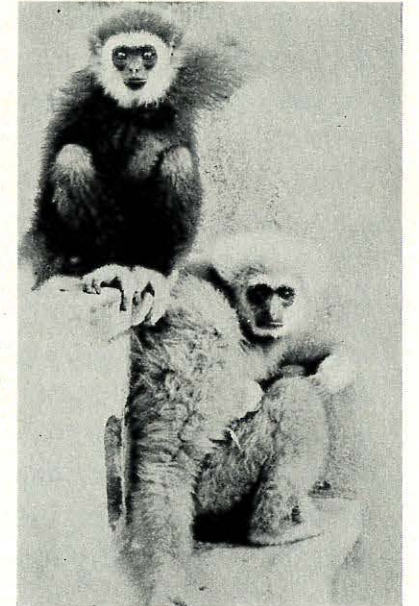
『来年もよろしくね』
キャンデーちゃんとうよう子ちゃん→



↑チンパンジーのよう子ちゃん
『この服似合うでしょう』



↑『後輩ガンバレヨ』
ちびちゃんをいたわるお姉さん。



↑てながざる
長い手で上手に木をわたりあるく。
さしずめ動物の鉄棒競技の選手?

11月動物園日記

- さいの運動場のコンクリートのカベに大穴があいてしまいました。さいの角によってあけられたもので、すぐ修理してやりました。
- らくだにひかす車ができ上がり、試運転をしました。
- ヨーロッパおおかみのめすが入園しました。
- キングペンギンやマカロニペンギンなど夏の間冷房室に入っていたペンギンたちを屋外プールに移してやりました。
- くろかもしかのおすが蹄叉に傷をうけましたので治療してや

- りました。しまうまの雑種の赤ちゃんを市民の皆さんに発表しました。
- 和歌山のよい子たちが、自分たちでひろいあつめたどんぐりやみかんなどをリスやチンパンジーたちにあげて下さいとおとずれました。動物園では、お礼にチンパンジーの演技をおみせしました。
- インドくろかもしかに赤ちゃんが生まれました。
- 朝夕の冷え込みが酷くなってきましたので、各動物舎の寝室に寝わらを入れてやることにしました。
- きつねの寄附がありました。奈良の上村さんから、かけいなど6種7点のきじや野鳥の寄

- 附がありました。
- オランウータンのおすが下痢をしていましたので治療しています。
- マンドリルのめすがとなりのくろざるとケンカして右拇指をかみきられてしまいました。
- アメリカばくは冬になると咳が出ます。スモッグのためと思われ薬を与えています。
- 来年の干支のさる舎にかざる『しめなわ』作りをはじめました。
- せいらんやしょうじょうとき舎に寒い北風をさけるビニール張りの作業をはじめました。

- ライオンのめすが寄附されて入園しました。
- アパートのさるたちにも赤外線電球による暖房をしてやりました。
- 新しいカバの家ができあがりしました。かばのひっこしは12月の5日ごろになります。
- ピューマの赤ちゃんは大きくなってきましたので親から離して飼うことにしました。
- てながのクリちゃんが肺水腫で死にました。

「ゴリラを育てる」

春に入園したオスのゴロ君、夏に入園したメスのラリちゃんは、その後順調に成長し2頭仲良く元気な毎日をおくっております。さすが類人猿最大（野生では身長180cm 体重300kgにもなるものがある）だけあってゴロは入園当時体重11kgでしたが、数カ月で19kgまで増加しました。又、ラリの方も入園時栄養状態も非常に悪く心配しましたが、それでも約1kgほどの増加がみられます。

ゴリラは非常に神経質な動物といわれていますが、この子らに限ってどういうわけか、凶太いというのか、鈍感というのかそんなところが見られません。しかし、まだ子供だけあって淋しがりやで、最初は檻の中に入るとだきついてきてなかなか出てこられず苦労させられました。よく扉の前にすわりこんで私らが外に出ないようにしたり、キーキー鳴いてひきとめるようにしました。

常は仲のよい彼等も遊んでやる時は、どちらも相手にやってやらないとすぐヤキモチをやき取っ組み合いを始めます。そんなとき、負けて逃げてくるのはきまってラリの方ですが、この子は女のくせに気が強く、片方の手でしっかりと私の腕をもちながらあいた手でゴロに反抗しています。（一般に猿などの高等動物においてはヤキモチをやく状態がよくみられ、人間も例外ではありません。特にメスにおいてはしばしばヒステリーという状態によって発散されることがあり、飼育は注意しなければなりません）

ゴロは男の子だけあってすもうが大好きで押し合いを好み、相手にやってやると私の方がヘトヘトになるほどです。

ゴリラの習性にドラミングというのがありますが、これも胸だけたたくのではなくて、頭や腹、尻そしてスベリ台などいろいろなところを両手でたたくきます。以前に、ミルクをいれるボールをお



夕食のすんだゴリラたちと 左は筆者

もちゃがわりに借してやると、ゴロはそれを頭にかぶってコツコツたたいて歩き回っておりました。首筋やおなか、脇の下等をくすぐってやると「ゲヘッヘ・ゲヘッヘ」と声をたて、よるこんで笑います。笑うということはゴリラにおいても健康のためにはよいことなのでしょう。おもしろいことにゴロはオスなので外まで、ラリはメスなのでとやかに内まで歩きます。

現在は2頭とも健康状態は良好ですが、日曜日など、沢山お菓子類を投げこまれ、たべすぎでおなかいたをおこしたことがあり心配しました。

これからも強くたくましく育てると共にきびしく調教し、将来のスターにするつもりです。動物の調教はなかなか忍耐と愛情のいる仕事ですが、今後もゴリラと共に成長しなくてはと思っています。（大野尊信）

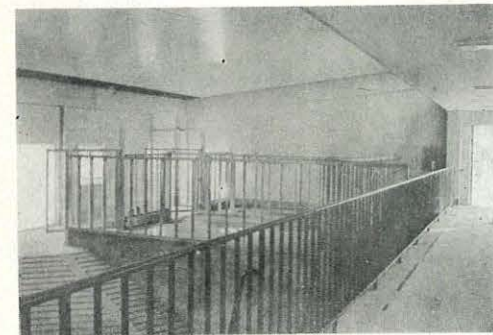
なきごえ12月号もくじ

さるの話	2
おサルのはたらき	3
動物園グラフ	4. 5
ゴリラを育てる	6
動物園ニュース	7

◆新しい「かばの家」ができました



全 景



寝 室

ハイウエー建設のため、従来の「かばの家」が取除かれる事になり、新しい「かばの家」の建設が進められていましたが、この程、完成をみました。寝室2室と屋内プールが完成し、屋外運動場は春頃出来上る予定ですが、美しく見やすい様に設計され、又悪臭を出来るだけなくす様にアメリカ製の防臭器と換気扇も取付けられています。

◆新しい動物舎の建設、始まる

全体改造計画に伴って、「ペンギン放飼場」「走鳥類放飼場」「猛禽類放飼場」の三大動物舎の建設が始まりました。

三月末までに完成して春には一般公開される予定です。

◆らくだの車登場

ふたこぶらくだが引く車（写真）が園内に登場して人気を集めています。こぶの周りにスズをつけてシャンシャンと園内を一巡しますと、子供たちが自分も乗りたいなあーとかけ寄って来ます。今のところ、演技に向うチンパンジーたちや演技道具をのせて園内をねりながらステージまで往復しています。



◆冬の準備に大わらわ

冬が駆け足でやってきた今日この頃、動物園のおじさんたちは、さむがり屋の動物たちの防寒に大いそがしの毎日を送っています。

キリン、サイ、かばを始め南国生れの動物たちにスチームを入れたり、わらを入れたりしてかぜをひいたり病気になる様子を毎日こまかい神経を使っています。

◆「しめ縄」作り

来年はさる年です。当り年のチンパンジーやゴリラの家を飾る「しめ縄」が今、飼育係のおじさんたちの手で、毎日セッセと作られています。

◆人気を呼ぶ貸うば車

入園者サービスのためはじめた貸うば車は、赤ちゃんをおぶったお母さん、お父さんに大変人気で、いつもひっぱりだこの盛況です。まだ30台しか用意しておりませんので、日曜祭日など予約をしなければならぬほどです。少なくとも100台くらいは揃えみなさんに使っていただきたいと思っています。



なきごえ 昭和42年12月15日発行（毎月1回15日発行）第3巻第11号（通巻31号）

編集人／和田辰巳 発行所／社団法人大阪市天王寺動物園協会

大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 771-8401

定価 40円

